

入浴関連死についての検討

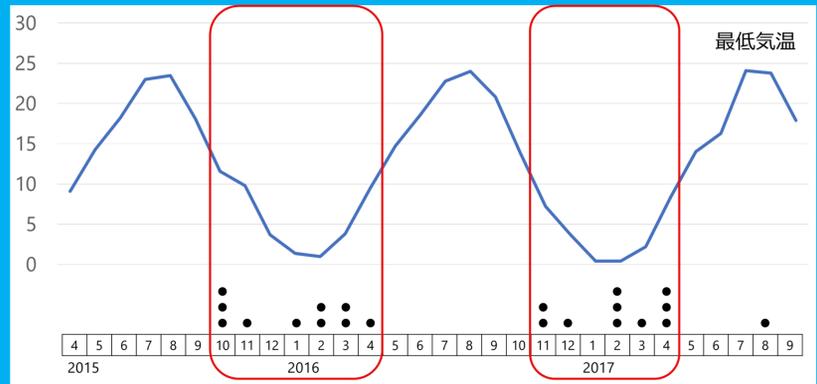
市立敦賀病院 救急科 福本雄太

※本発表に際し開示すべきCOI関係にある企業等はありません

【背景】

2017年10月に行った報告で、2015年4月1日から2017年9月30日の914日間【期間Ⅰ】で福井県立病院に搬送された院外心停止(OHCA) 273症例のうち、入浴前後における浴室周囲での死亡(入浴関連死)は21症例認められ、その多くは10月から3月の最低気温の低い日に発生していた(図1)。

図1. 月別の入浴中の死亡発生数と最低気温



	2015年	2022年
全国の人口	12709万	12471万
うち65歳以上	3387万(26.7%)	3627万(29.1%)
福井市人口	266,701	258,085
うち65歳以上	72,432(27.2%)	76,227(29.5%)
敦賀市人口	67,305	63,797
うち65歳以上	17,524(26.0%)	18,820(29.5%)
不慮の事故総数	38,310	43,420
うち65歳以上	31,032(81.0%)	38,106(87.8%)
浴槽での溺水	5,293	6,679
うち65歳以上	4,843(91.5%)	6,307(94.4%)

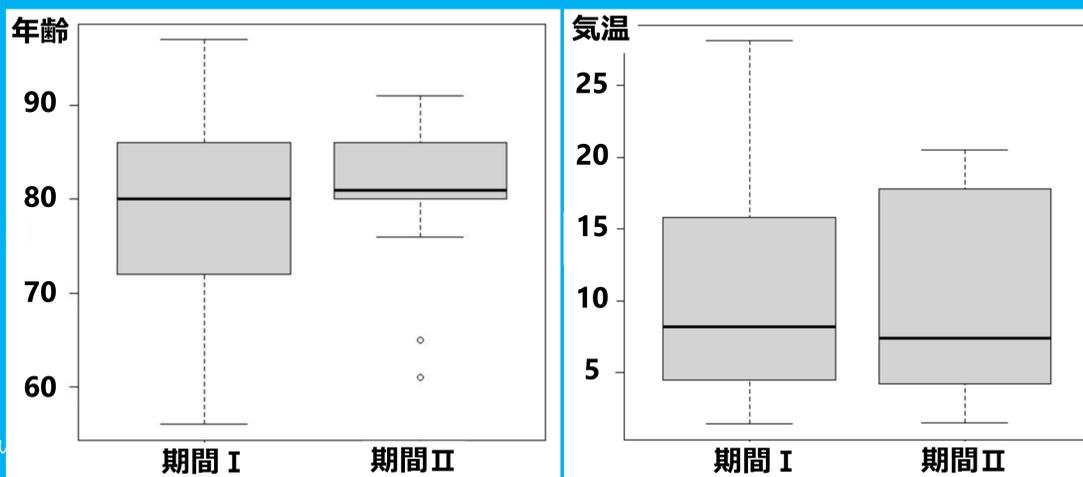
表1. 期間Ⅰ/Ⅱにおける福井市、敦賀市の人口および不慮の事故による死者数の推移

我が国において高齢者の人口は年々増加傾向にあり、不慮の事故、とりわけ浴槽内での溺死の件数も増加傾向にある(表1)。以前の報告から7年経過しており、同様の期間での入浴関連死について調べ、その差異について検討を行った。

2021年10月1日から2024年3月31日の912日間【期間Ⅱ】に市立敦賀病院に搬送されたOHCA148症例のうち、入浴関連死は17症例であった。

【結果】

▼図2. 期間ⅠおよびⅡにおける入浴関連死症例の年齢および発生時間の気温



◀表2. 期間ⅠおよびⅡにおける入浴関連死症例の状態

*心拍再開症例についてはいずれも24時間以内に死亡確認となった

	期間Ⅰ	期間Ⅱ
入浴関連死数/OHCA数	21/273	17/148
年齢(中央値[最小, 最大])	80[56, 97]	81[61, 91]
男女比	男10 女11	男7 女10
冬季(10~3月)の症例	16	13
初期波形		
Asystole	18	16
PEA	1	1
不明	2	0
心拍再開あり*	2	1
死因		
溺水	13	12
急性冠症候群(疑い含)	5	4
大動脈解離	1	1
不明	2	0

【考察】

- ✓ 年齢の中央値は80歳以上で高齢者に多く、期間Ⅰ/Ⅱでの有意差は認めない(図2)。
- ✓ 期間Ⅱにおいても期間Ⅰと同様に入浴関連死は冬季に多かった(表2)。
- ✓ 入浴関連死の発生時間における気温の中央値は10度以下であり、期間Ⅰ/Ⅱでの有意差は認めない(図2)。
- ✓ 期間Ⅰ/Ⅱいずれでも死因を溺水と判断される症例が多かった(表2)。

入浴関連死は高齢者に多く、また気温の低い冬季に多く起こっていることが分かった。また入浴関連死の多くは目撃のない心肺停止であり、死因の同定は困難であることが多いが、期間Ⅰ/Ⅱいずれにおいても発見時の様子や死亡時画像診断(Ai-CT)の所見から死因を溺水と判断された症例が多かった。

以上のことから、入浴に際し何らかの原因で意識消失を起こし浴槽内に沈んでしまうことで発生する入浴関連死が多いのではないかと推測する。意識消失に至る原因までは本研究では不明であるが、入浴中に定期的に様子を見ることで溺水による入浴関連死を予防することができるのではないかと考える。

【結語】

高齢者の入浴の際は、とりわけ気温の低い日には、定期的に様子を見たり声掛けをすることが望ましい。

【参考資料】

- 気象庁HP
- 厚生労働省 人口動態統計
- 統計局HP
- 福井市/敦賀市HP